

## コロナ禍における秘かな楽しみ

埼玉県立歴史と民俗の博物館副館長 岡本健一

2020年当初、新型コロナウイルスが流行するやいなや、4月には全国に緊急事態宣言が出されることになり、埼玉県においても「三密回避」「不要不急の外出自粛」などが叫ばれるようになった。私が最もつらかったのは「県をまたぐ外出の自粛」であった。休日、どこかへ出かけるにしても、埼玉の観光地はだいたいどこもに行っているし、行ったとしても同じような人たちで混雑しているのではないかと危惧したりもした。私の愛して止まない温泉も、埼玉は皆無に近い。

県内でも何か新たな楽しみを、と探っていたところ、ふと以前から気になっていた「火の見櫓」が頭に浮かんだ。かつてはどの集落にもあった、あの鉄塔状の火の見櫓である。

火の見櫓は江戸時代に存在し、戦前にも多くの鉄製のものが作られたが、ほとんどが戦時中の供出によって撤去されてしまった。戦後、再び火の見櫓は復活し、昭和30年代が製造のピークとなるが、その後、防災無線等の普及もあって次第に作られなくなり、今ではホース干しか、スピーカーの台としての役割しか残されていない。すでに火の見櫓としての機能は失われて無用の長物となっており、次々と解体の憂き目に会っている。たとえ今残っていても、あとは解体を待つばかりという「絶滅危惧種」なのである。景色に溶け込んでいるため存在感はほとんどなく、その集落の住民以外は、そこに火の見櫓があること自体、気にも留めていないので、撤去されても誰も気が付かない。しかし、火の見櫓は集落の安全を守るための力強い味方、地域コミュニティの象徴としての建築物であった事実を忘れてはならない。

インターネットで検索すると「きまぐれ旅写真館 第10回 埼玉県の火の見櫓」という個人のブログが見つかるが、これが実に詳しい。このブログの地名表を基に私も火の見櫓の探訪の旅に出かけたが、ほぼすべて網羅されており、すでになくなってしまったものはあっても、この地名表以外で新たに発見したものはなかった。なお、私が県内で巡った火の見櫓は、現在約280基である。

一言で「火の見櫓」と言っても、その形態は千差万別。既製品はなく、地域の鉄工所が発注を受けて作るもので、同じものはほとんどない。一本足型、梯子型、櫓型に大きく分けられるが、とくに興味深いのは櫓型。この型の火の見櫓でまず注目されるのは全体のプロポーションで、スラっとして緩やかな曲線を描く脚線美に酔いしれることもしばしばである。上から観察していくと、屋根には避雷針と洒落た風向計、そして謎の蕨手状の流水文？がみられ、屋根の軒先端にはカール状の蕨手装飾も付いている。それらの装飾は何の機能も持たないが、地域を超えて多くの火の見櫓に施されている。火の見台の手すりにも様々な意匠が施され、櫓中間部の踊り場の有無や、梯子の取り付け方、接合法がリベットかボルトか溶接かなどなど、観察ポイントは無数にある。そして最も重要なのが、事例は多くはないが、製作された年号が記載された銘板やコンクリート基礎の刻印である。私の専門とする考古学ではこれを記年銘といい、年代決定のための重要な手がかりとなる。これを基に、火の見櫓の型式学的編年ができるのではないかと勝手に思っている。

現在は埼玉県外の火の見櫓に関心を持っている。とくに群馬県はかなり回った。最近ではドライブをしていると、火の見櫓のありそうな気配を感じることがある。思いがけないところで遭遇した時の喜びはひとしおである。くりかえすが火の見櫓は絶滅危惧種である。老朽化も相まって、遠くない未来にこの世からなくなってしまうだろう。ただ、役割を終えてもそっと目立たず、けなげに、優しく人々を見守り続ける姿に、自分の老後の理想を思い描くのである。



## 今後のイベントスケジュール

\*申し込みは各イベントの募集要項に応じてお願いします。

ホームページ: <https://junosaitama.net/> ブログ: <https://junosaitama.seesaa.net/>

- 10月28日 (金) まち歩きクラブ (隅田川テラス歩き 第3回 延期分) <今号で紹介>
- 11月9日 (水) 第3回古文書学習会 <今号で紹介>
- 11月12日 (土) 古道探索倶楽部 (鎌倉街道中道 (御成街道) 番外編) <今号で紹介>
- 11月27日 (日) 古代文化を考える会 (第8回 「磐井の乱」とその後) <今号で紹介>
- 11月30日 (水) 講演会 「縄文貝塚と埼玉の遺跡」 <今号で紹介>
- 12月2日 (金) 「縄文貝塚と埼玉の遺跡」第1回 現地見学会 <今号で紹介>
- 12月7日 (水) 第4回古文書学習会 <今号で紹介>
- 12月9日 (金) まち歩きクラブ (西洋美術館と下谷七福神)) <今号で紹介>

## 会員アンケートの結果と今後の対応について

8月に実施したアンケートは会員の77%にあたる326名から回答を頂きました。結果概略は以下の通りです。

- ホームページを閲覧できる会員 258名
- 上記会員の内 メールアドレス登録済会員 170名 今回新規登録 71名
- 登録はしない会員 14名 不明 3名
- ホームページ閲覧できない会員 68名
- その内 印刷物配布 (有料) 希望: 36名 不要: 32名
- ※ホームページ閲覧できる会員からも印刷物配布 (有料) 希望が18名ありました。

### お願い

今回のアンケートも含めてメールアドレスを登録済の会員には、10月15日までにメールマガジン形式の案内を送信いたします。登録済で、この友の会からのEメールが届かない方は、登録Eメールが誤りあるいは登録されていない可能性があります。恐れ入りますが以下のメールアドレスあてに「Eメールが登録されていません」という表題で、現在お使いのEメールアドレスを送信してください。

・送信先: [saitamahakutomo@gmail.com](mailto:saitamahakutomo@gmail.com)

## 博物館は休館しても友の会の活動は続きます

- ◆講演会と見学会のコラボ企画 「究めよう」シリーズ (別紙案内)
- ◆休館中の広報について  
博物館休館中は、友の会会報も休刊となります。期間中の催事案内は2ヶ月に一度、ホームページに掲載し、掲載したことをメールアドレス登録されている会員にはメール通信でお知らせします。催事参加申込みもホームページ経由で受け付けます。
- ◆印刷物による案内希望の方には上記と同じ日程で案内を郵送 (有料) します。参加申し込みは、はがき・TELなど催事により変わります。先日のアンケートで、印刷物案内希望とされた方には会報10月号で振込用紙同封して、800円 (印刷・郵送料など) を納入していただきます。
- ◆クラブ活動・郷土史会共催事業 休館中も通常通りに活動。およその日程は以下の通り
- まち歩きクラブ
  - ・上野公園から谷中を歩く (12月9日)
  - ・小倉城と武蔵嵐山 (3月)
  - ・東京駅～丸の内と日比谷公園 (9月)
  - ・見沼代用水と2つの富士塚と白鳥 (1月)
  - ・玉川上水の桜堤と江戸東京たてももの園 (5月)
  - ・城南五山と自然教育園～高輪ゲートウェイ (11月)
- 古道探索クラブ 中山道の埼玉県域部分を中心に10宿を少しマニアックに実施。
  - ・中山道その1 ～蕨宿 (3月)
  - ・中山道その2 ～浦和・大宮宿 (6月)
  - ・中山道その3 ～上尾宿 (9月)
  - ・中山道その4 ～桶川宿 (11月)
- 古代文化を考える会 一館外施設を使って継続—
  - ・3月上旬: 物部麿鹿火王権と仏教伝来
  - ・6月上旬: 阿每王権 (隋書でいう倭国) と元興寺
  - ・9月上旬: 「王権乱立の時代」—豊王権、上宮王権、
- 円空仏研究会 円空仏所蔵のお寺への拝観を中心に随時計画
- 古文書学習会 (共催事業) 12月7日 (水) 会場・市民会館おおみや 以後原則各月1回

## 活動報告&今後の予定

古文書学習会『岩井家舊記大集』を読む 第1回開催 大宮郷土史研究会共催事業 60名参加

9月8日(木)60名の参加がありました。始めに岩井隆興氏(大宮氷川神社元神主・友の会前会長)からご挨拶を頂き、次に大宮氷川神社の古文書の紹介と歴史について解説があり、その後『舊記大集』の一枚目「差上申証文之事 元禄7年 山久保村名主三郎兵衛」の解説をしました。音声が届かずお聞き苦しい面もありましたが、参加者の熱気あふれるなか盛況なうちに終えることができました。



## 第34回 日光道中を訪ねてその7 9月10日に開催 古道探索倶楽部 33名が参加

今回は、日光道中幸手宿から栗橋宿までの探索です。幸手宿の街道沿いには、問屋場跡や、旧家の建物など風情ある場所があって、一日いても面白そうです。権現堂堤の行幸碑を見たあと、権現堂公園で昼食としました。結構暑かったですが、ちょっと一息入れました。



権現堂川沿いに栗橋宿に向かって歩いていくと、川面を通った風でヒヤリとして、一番暑いであろう時間でしたが、快適に歩けました。栗橋宿のお寺等を見て回ったあと、駅に近い、静御前の墓にお参りしました。近くの和菓子屋さんで「月見団子」を売っていて、そういえば中秋の名月の日だったと思いながら（売り切れていて食べられなかったですが）、栗橋駅で解散となりました。かなり暑かった1日でしたが、途中でリタイアする方もおらず、やはり皆んなでの街道歩きは楽しかったです。次回は、11月12日(土) 日光道中岩槻(慈恩寺)～和戸を散策します(途中抜けていた場所)。その後、中山道になります。

## 「古代文化を考える会」第7回 9月25日に開催—「倭の五王」と日本、半島の征服—60名参加

「倭の五王」については『宋書』など中国六朝時代の史書に記録はあるが、歴史的に究明されているとは言い難い。当講演ではその古代史の闇を明かしていただいた。『宋書』倭国伝の倭王武の上表文に「東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国、渡りて海北を平らげること九十五国」とある。この王権は390年頃に「倭城」から渡来した「卑弥氏」で、筑後の八女を本拠に478年迄には日本列島の大部分と半島の国々を支配した。この支配を進めていく中での事蹟を五王の時代別に詳細にお話いただいた。定説では「獲加多支鹵大王=倭王武=雄略天皇=大和の天皇、辛亥年=471年」とされるが、それは成立しないこと、5世紀後半には畿内の古墳に大きな変化が現れ、「長持形石棺」に代わって、九州菊池川下流域の「九州の舟形石棺」が登場したこと、5世紀末～6世紀初頭には「宇土のピンク石製石棺」が持込まれたことなど興味深い内容であった。稲荷山古墳出土の鉄剣銘からの情報等をもとにした「杖刀人の首」の「乎獲居臣」のルーツや同古墳、二子山古墳、鉄砲山古墳の被葬者についてや、「吉備王国」征服や江田船山古墳と鉄剣・被葬者についても様々な角度から言及された。あつという間の3時間であった。(齊藤記)



## 令和4年度第3回 博物館・友の会共催講演会 10月2日に開催 満席

鎌倉幕府草創期に活躍した武蔵武士の中にご当地を出自とする足立遠元がいました。大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にも登場する著名な人物でありながら、その実像はあまり知られていないといえます。今回の講演会では遠元館跡の伝承地が三ヶ所もある桶川市から市文化財課主幹藤沼昌泰氏をお招きし、謎多き足立遠元の人物像を紐解いていただきました。お話から見えてきた足立遠元という武士は、文武両道に優れているだけではなく、都とも太いパイプを持つ在地の武士団には無い「情報力」で抜き立てていた人物であったようです。

### ◆隅田川テラス歩き—13の橋と文化景観(その3)◆

2022年(令和4年)10月28日(金)に「まち歩きクラブ」(9/30の再企画)

《日時》2022年(令和4年)10月28日(金) 10時00分～15時00分頃

《集合》地下鉄日比谷線・人形町駅のA3出口・地上側(道路上) 午前10時 雨天中止

《費用》交通費は各自負担。保険と参加費用:300円

《概要》隅田川テラス歩きの最後となる第3回目。隅田川大橋から永代橋、佃大橋を通り勝鬨橋まで歩きます。今回も様々なお宝を見学します。今回も昼食の用意をお願いします。

《行程》人形町通り→隅田川大橋→永代橋★→豊海橋☆(日本橋川)→南高橋☆(亀嶋川)→中央大橋→佃島(住吉神社)→相生橋→中の島公園→明治丸(★)記念館(見学)→(昼食休憩)→佃大橋→波除神社→勝鬨橋★→大江戸線・勝どき駅解散予定→オプション(築地大橋=隅田川最新橋)(★国文化財 ☆区文化財)

《申込・問合せ》①友の会ホームページの「申込フォーム」より送信フォームをお願いします。

### ◆上野から谷中を歩く—西洋美術館と下谷七福神◆

2022年(令和4年)12月9日(金)に「まち歩きクラブ」

《日時》2022年(令和4年)12月9日(金) 10時00分～14時00分頃

《集合》JR上野駅 公園口改札前集合 午前10時 雨天中止

《費用》交通費は各自負担。保険と参加費用:300円

《概要》本来のデザインに近い改装が終了した国立西洋美術館(常設展=65歳以上無料)を見学し、上野公園から出発して、都内で最古の下谷七福神のルートをたどりながら下谷地区の雰囲気と旧跡などを散歩します。行程は不忍池弁財天→護国院→長安寺→谷中銀座→天王寺→五重塔跡→富士見坂→終性院→青雲寺→JR田端駅(解散)。歩行距離は約4キロ。途中で休憩・買物時間をはさみます。昼食は持参でもお店でも。

《申込・問合せ》①友の会ホームページの「申込フォーム」より送信フォームをお願いします。

②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp 電話:090-1990-4807

## ◆第 35 回古道を訪ねて 鎌倉街道中道(御成街道)番外編◆

2022 年(令和 4 年)11 月 12 日(土)に「古道探索倶楽部」

◀日時▶2022 年(令和 4 年)11 月 12 日(土) 集合 8 時 30 分～解散 15 時(予定)

◀集合▶ 東武野田線岩槻駅西口改札口周辺 8 時 30 分 時間厳守

◀コース▶ 東武野田線岩槻駅 9 時(バス) 240 円—観音入口(徒歩)—相野原—一里塚—宝国寺—最勝寺—御成街道—下野田—一里塚—忠恩寺—高岩天満神社—華蔵院—和戸駅解散 15 時

◀費用▶ 資料代等・参加費 500 円

◀その他▶ 歩行距離は約 10 km 史跡巡りを入れると 11 km 少々です。弁当と飲み物は必ず事前にご用意願います。

◀問合せ先▶ 前日まで寺内 048-881-3383 当日 小俣(おまた) 090-3436-9017

◀参加申込▶ ①友の会ホームページより申込 ②11 月 4 日(金)までに、普通葉書に氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して〒330-0073 さいたま市浦和区元町 3-32-25-202 寺内慎一あて

\* 次回(36 回)からは新シリーズ「中山道を行く」が始まります、

## 募集案内 古文書学習会『岩井家舊記大集』を読む

共催：埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会・大宮郷土史研究会

『岩井家舊記大集』p20～53 のテキストをお渡しします。その中のうち、まず元禄 7 年の文書 5 点を読みます。次に『元禄 7 年一宮氷川大明神社領検地覚書』(西角井家文書 5268)を解説し、元禄 7 年検地の経緯・目的を明らかにしていきます。

◆日程 (毎月第 2 木曜日を予定しておりますが、会場の都合で変更することがあります)

第 3 回 11 月 9 日(水) 午後 1 時 30 分～ 市民会館おおみや 6F 集会室 8 会場費 300 円

第 4 回 12 月 7 日(水) 午後 1 時 30 分～ 市民会館おおみや 6F 集会室 9 会場費 300 円

◆申込方法 (第 3 回・第 4 回分)

①友の会ホームページの「申込フォーム」から

②ハガキ 友の会会員番号・氏名・メールアドレス・住所・電話番号・第○回学習会参加と明記し  
〒337-0042 さいたま市見沼区南中野 1183-10 齊藤文孝宛

## 新しい視点で学ぶ日本の古代史

11 月 27 日(日)に「古代文化を考える会(第 8 回)」

◀日時▶2022 年(令和 4 年)11 月 27 日(日) 13 時 00 分～16 時 00 分

◀場所▶当館講堂 東武アーバンパークライン(東武野田線)大宮公園駅下車

◀テーマ▶「磐井の乱」とその後

「磐井の乱」(辛亥年・531 年)とその後の混乱について講演いただく。「磐井の乱」の始まりは「新羅に破られた南加羅・碓己吞を復興する」ためであったという。しかし「南加羅(金官国)」が新羅に服するのは 532 年である。また「継体天皇」が「物部麁鹿火」を派遣して「倭王」を伐った事件であるというが、「継体天皇」は 527 年に死去している。これら「磐井の乱」の始まりの記述は『日本書紀』の捏造であるという。

「物部麁鹿火」には「倭王権」の臣下の称号「大連」が付いている。「磐井の乱」は臣下の「麁鹿火」が主君の 6 番目の倭王「葛」(松野連系図では「哲」)を伐った事件であった。

「物部麁鹿火王権」は倭王権は倒したが朝鮮半島の「任那日本府」や任那諸国の支配はできずにいた。「任那日本府」にとって「物部麁鹿火王権」は主君を伐った憎い存在であったからでもある。そして「任那復興」は終焉に向かう。「物部麁鹿火王権」は 531 年に始まり「三代目」の 552 年に終わる。「日本書紀」は「倭王権」、「物部麁鹿火王権」、それに続く「倭国(阿每王権)」を抹殺し、大和朝廷での出来事として記している。日本の歴史の真相をしっかりと掴みたい。[参加される方は早わかり「日本通史」の他、第 7 回資料もご持参ください。]

◀講師▶ 佃 収 先生

◀費用▶ 資料代(当日配布)として 500 円、本代(早わかり「日本通史」)1,000 円

◀申込▶ 参加を希望される方は

①「友の会ホームページ」を通して。

②「普通ハガキ」に会員番号・氏名・住所・電話番号を明記して「埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会—古代文化を考える会—宛」

申し込み多数の場合(現定員 81 名)は抽選とさせていただきます。抽選に漏れた方に対してのみ別途ご連絡させていただきます。◀問合せ先▶ 齊藤 048-853-6728

遺跡と出土品から知るさいたまの歴史・講座と見学会のコラボレーション

## 「究めようシリーズ その1・国指定史跡4大貝塚を究めよう」

日本列島の中でも東京湾沿岸は縄文時代の貝塚が最も多く分布する地域です。今は内陸となった埼玉県内だけでも100を超える貝塚遺跡が確認され、その中で4ヶ所の貝塚が国指定史跡となっています。数ある貝塚の中で、何故この4貝塚が指定されたのか、その特徴や価値について、そして、そもそも貝塚とは何なのか、改めて縄文時代研究の新しい知識を学び、その後で現地を訪ね往時を体感しましょう。

### 講演会

# 縄文貝塚と埼玉の遺跡

水子・黒浜・神明・真福寺貝塚・その特徴と価値

講師 君島勝秀氏 当館主席学芸主幹

日時 令和4年11月30日(水) 13時30分～15時

場所 当館講堂 (東武アーバンパークライン大宮公園駅下車徒歩5分)

参加費無料 会員限定ですがご家族・友人は同伴参加できます 先着順80名

## 現地見学会

第1回 水子貝塚(富士見市) + 難波田城跡公園

日時 令和4年12月2日(金) 9時00分(時間厳守)

集合地 東武東上線志木駅東口 まちあわせ河童像前 小雨催行

行程 志木駅東口-路線バス-水子貝塚公園・展示館、資料館見学-徒歩 1.7K-  
難波田城公園・史跡、資料館見学 終了12時30分頃 現地解散

参加費 300円(資料代他) 会員限定ですがご家族・友人は同伴参加できます

先着順 定員25名

御参加の申込は **講演会・現地見学会を明記の上**

A・別途ホームページ「申込フォーム」から B・インターネット利用されない方は下記電話へ直接申込 090-2404-9553 中村(10時～17時限)

締切 11月20日(日) 必着

今後の予定 第2回見学会 蓮田黒浜貝塚 令和5年2月 第3回 春日部

神明貝塚 令和5年3月上旬 第4回 岩槻 真福寺貝塚 令和5年3月下旬

究めようシリーズその2 埴輪と古墳 講演会と見学会 令和5年4月～9月

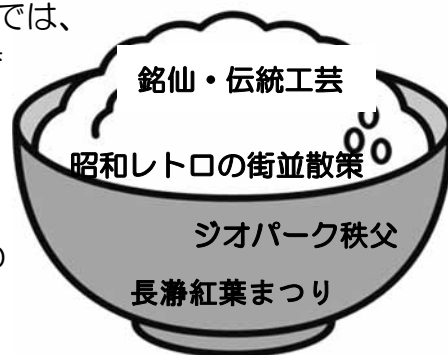
順次ご案内します

## 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会見学会

企画展「銘仙」開催に合わせて

# てんこ盛り・錦秋の秩父見学会

大正時代から戦前にかけて、洋装に身を包んだモダンガールのファッションが巷で注目を集める一方で「銘仙」と呼ばれる絹織物の着物が大流行しました。ある調査では大正14年（1925）5月・銀座では女性の5割が銘仙をまっていたということです。足利や伊勢崎と共に、埼玉県では秩父地方が銘仙の産地として活況を呈し一時代を築きました。この企画では、企画展やプレミアム講座での知見をもとに、銘仙を育んだ秩父の町を訪ね、ちちぶ銘仙館見学の後、レトロな街並を散策し、昭和モダンの香りに触れてみたいと思います。また近年ジオパークとして注目される長瀬に立ち寄り、県立自然の博物館や岩畳で悠久の地球の歴史の一端を学びます。



### 行程

秩父鉄道・御花畑駅一秩父銘仙館 展示ブース・資料館＝旧埼玉繊維工業試験場（国登録）一番場通り・黒門通り・宮側町など街歩き（約20棟の国登録建造物を秩父市文化財審議委員千島公一氏にご案内願います）一秩父神社（以上約3キロ歩行）一昼食（イタリアンレストラン・トラゲット）一秩父駅一上長瀬駅一自然の博物館 館展示見学一岩畳に沿った哲学の道を館学芸員のご案内で地形・地質を観察しながら長瀬駅迄散策（以上約2キロ歩行）

※時間に余裕ある方は紅葉ライトアップなど楽しんでお帰り下さい。

**日時** 令和4年11月18日（金） 少雨催行

**集合時間** 午前 8 時 25 分（時間厳守）

**集合場所** 秩父鉄道熊谷駅改札口外 友の会の旗が目印

**参加費** 4,500円（秩父鉄道フリー切符・昼食費・入館料・資料代・ガイド料など）

※熊谷駅までの料金は各自負担。フリー切符（24%割引）不要の方も申込時にご連絡下さい

A・ホームページ「申込フォーム」から

B・通常はがきに会員番号・氏名・住所・電話番号・イベント名を明記、

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。返信は致しません ご家族・ご友人1名迄同伴可

締切10月31日（月）必着 ※先着順 25名迄

★途中5キロ程歩きます。足元をしっかりとってご参加ください。

見学会に関するお問い合わせと当日緊急連絡先 090-2404-9553 中村

プレミアム講座 「人の一生と銘仙」講師 町田歩未当館学芸員

令和4年10月26日（水）13時30分当館講堂

会報169号募集 まだ若干の空席有り・友の会ホームページより申込下さい